

ALBIREX RACING TEAM レースレポート

2017年 全日本 F3 選手権 第6戦 富士スピードウェイ

カルネイロ選手、自己ベストリザルトでシリーズポイント獲得

全日本 F3 選手権の第3大会が、富士スピードウェイで開催。12日(金)に行われた占有走行では、ブルーノ・カルネイロ選手は11番手と順位は振るわなかったものの開幕前の公式テストと比べて上位ドライバーとのタイム差を縮め、ここまでの成長ぶりを見せました。また長谷川綾哉選手はさらなるステップアップを目指してドライビングを改善。スピンを喫する場面も見られましたが、手ごたえをつかんだかたちで公式予選へ臨むこととなりました。

今大会の予選はこれまでと異なり、10分間のセッションを2回行う方式。コースインラップの時間を考えると、アタックのチャンスは本当に僅かしかありません。朝から降り続く雨が強まっていく中、2人のドライバーはセッション開始と同時にコースイン。カルネイロ選手は計測3周目にベストタイムをマークし11番グリッドを、長谷川選手は最終ラップに自己ベストタイムをマークし F3-N の2番グリッドを獲得しました。

1日中雨の降り続いた土曜日でしたが、第6戦がスタートするころには雨も弱まってきました。とはいえ完全なウェットコンディションでレースはスタート。カルネイロ選手は抜群のスタートで11番手から8番手へと大きくポジションアップに成功しました。さらにその後も、予選ではタイムを離された上位陣のドライバーに食らいつき、7周目にはこれをオーバーテイク。翌周にはレース中の自己ベストタイムを記録するなど、順調に周回を重ねていきました。惜しくも終盤、調子を取り戻してきた後方のドライバーにかわされ8番手でチェッカーフラッグを受けましたが、レース後に上位ドライバーにペナルティが課されたため、カルネイロ選手は2ポジションアップの6位という結果に。F3参戦6戦目にしてシリーズポイントを獲得となりました。長谷川選手はスタートで F3-N の首位に立つも、3周目にスピンし後退。2番手のポジションは守り切り、今季3回目の表彰台獲得を果たしました。

#21 ブルーノ・カルネイロ (AlbirexRT-WILSON: ダラーラ F315/ Mercedes-Benz 414)

予選 11位 / 決勝 6位

「とても良いスタートを切ることができました。さらに1周目の混戦をうまく切り抜けられて8番手まで上がりました。ポイントを獲得できたことはうれしいですが、次はラッキーだけでなく自分の力でそのポジションまでたどり着きたいです。第7戦はドライコンディションでレースができると思うので、楽しみにしています。」

#22 長谷川綾哉 (Alb 新潟第1ホテル Suger: ダラーラ F308/トヨタ・トムス 3S-GE)

予選 2位 / 決勝 2位

「スタートはうまくいってトップに立てたのですが、コカ・コーラコーナーで縁石に乗ってスピンしてしまいました。運よくすぐに立て直せたのですが、2位に下がってトップとの差がついてしまい、そのままの結果になってしまいました。せっかくのトップをミスで失ってしまった、こういうことを減らさなければと痛感したレースでした。明日はコンディションも変わるので仕切り直して頑張ります」

アルビレックスレーシングチーム

〒959-2600 新潟県 胎内市 松波 1013 番地 36 株式会社スピードパーク新潟 内
[第2ファクトリー] 〒950-0951 新潟県新潟市中央区鳥屋野 416 番地 6 ガレージメトロ内
TEL 0254-45-2900(代) FAX 0254-45-2910 e-mail: info@speed-p-niigata.jp
<http://www.albirex-racing-team.jp>

ALBIREX RACING TEAM レースレポート

2017年 全日本 F3 選手権 第7戦 富士スピードウェイ

長谷川選手、F3 初優勝

富士スピードウェイで開催された全日本 F3 選手権・第7戦で、アルビレックスレーシングチームの長谷川綾哉選手が、前日の雪辱を挽回する走りで F3-N 初優勝を飾りました。

第7戦の公式予選も10分間という短いセッションでしたが、直前の走行でコース攻略のヒントを得た長谷川選手は、第6戦予選の自己ベストタイムを約1秒削り、F3-N のポールポジションを獲得。カルネイロ選手もタイムを縮めて10番グリッドを獲得しました。

決勝レースは14日(日)に行われ、ドライコンディションでスタートしました。長谷川選手は、スタートで前のグリッドにいたマシンに引っかかり、ライバルに逆転を許してしまいます。いったんはトップのマシンに3秒以上の差をつけられましたが、4周を過ぎたころから徐々にペースアップ。8周目にはその差が1秒を切るようになりました。そして、11周目のバトルの末、再びトップに躍り出ました。後方では激しい2位争いが繰り広げられ、スピンやクラッシュが相次ぎましたが、長谷川選手は自分のペースを乱すことなく周回。F3-N のトップチェッカーを受けて自身初優勝を果たしました。

カルネイロ選手は前日同様に好スタートを切り7番手にポジションアップ。コース幅が広く、随所に抜きどころのある富士でバトルを展開しました。16周目に6番手に上がり、2戦連続でのポイント獲得に期待がかけられていましたが、残り2周のところまで1台にかわされ7位でチェッカーを受けました。

#21 ブルーノ・カルネイロ (AlbirexRT-WILSON: ダラーラ F315/ Mercedes-Benz 414)

予選 10位 / 決勝 7位

「たくさんバトルができたし、マシンのセットアップについても進化を感じられて、とてもいいレースができました。残り2周のところまでポイント獲得を逃してしまったのは残念ですが、僕自身もクルマも進化している証拠を、この週末に1ポイント獲得できたことで証明することができました。次の舞台は岡山です。初めて F3 のレースを戦った場所に戻るわけですが、あの時よりも進歩した状態で挑めるので、今度はトップ5フィニッシュを目指して頑張ります」

#22 長谷川綾哉 (Alb 新潟第1ホテル Suger: ダラーラ F308/トヨタ・トムス 3S-GE)

予選 1位 / 決勝 1位

「スタートでは前のマシンに引っかかったところをすり抜けられてしまいましたが、自分のペースのほうが良いことは分かっていたので、落ち着いて走り始めました。ちゃんと順位を取り戻せましたし、レース後半も自分のペースを乱すことなく走れました。開幕戦から上位を狙っていたので、7戦かかってようやく優勝できたという感じです。次戦はもう一度岡山に戻ってのレースになりますが、次もトップに立てるようにしたいです」

中村寿和チーム代表

「長谷川選手は土曜日からチームとミーティングを重ねていて、本人も落ち着いているように見えました。ですから第7戦に関しては、優勝できるだろうと期待を持っていましたが、その通り勝利を挙げることができました。スタートで順位を落としましたが、ペースに急激な落ち込みもなかったのが、こちらは焦ることなく見守っていました。カルネイロ選手に関しては、第6戦でポイントを獲得できましたが、実力としてはドライコンディションで戦った7位というのが現状の力だと思っていますが、それ以外にもいろいろなものが見えたレースだったと思います。たくさん経験も積めたのではないのでしょうか。トップ6ぐらいは常に狙いたい、レース展開によってはさらに上も…という気持ちになりました。引き続き、2台そろって上位を目指していきたいと思います」